令和７年度前期入学第２回試験　がん看護【出題意図】

【問１】
「がんとの共生」分野は、相談支援・就労支援・アピアランスケア・緩和ケアなど、生活の質に直結し看護職が中心的役割を担う領域であるため、この分野を理解し政策を看護実践へ適切に結びつける力を評価する。

【問２】
国内のエビデンスに基づく予防知識を理解し、それを看護実践に適切に応用できる力を評価する。

令和７年度前期入学第２回試験　がん看護　解答例

【問１】
アピアランスケア: 乳房切除術後の患者が、術後化学療法による脱毛への強い不安から治療開始をためらっていた事例を担当した。患者は外見の変化が社会生活や対人関係に及ぼす影響を懸念しており、治療継続の意思決定に支障をきたしていた。がん治療に伴う外見変化への支援として推奨されているアピアランスケアの観点から、頭皮冷却法による脱毛軽減効果について説明し、実施可能な施設や注意点を含めて情報提供を行った。
この介入により、患者は外見変化への不安が軽減され、治療への意欲を取り戻し、化学療法を開始する意思決定につながった。本事例は、外見変化が治療選択に影響を及ぼす心理社会的側面を捉え、エビデンスに基づく支援を用いて患者の意思決定を支えるという看護実践であり、「がんとの共生」を支援する看護の一端を示すものであったと考える。

【問２】
禁煙する: 禁煙外来を中断していた患者に対し、自己流の禁煙では成功率が低いことを説明し、禁煙外来での薬物療法や専門的支援を利用する利点を再度伝え、受診再開につなげた。また、中断理由を確認し、社会的支持を強化するために家族の協力を促した。これにより、患者が禁煙行動を継続しやすい環境を整え、がん予防に向けた行動変容を支援することができた。
食生活を見直す: 食生活ががん発症に影響することを説明し、胃がん予防のための減塩や、野菜・果物を取り入れた食事の重要性を伝えた。さらに、患者の食習慣や生活背景を確認した上で、管理栄養士と連携し、食事に一皿野菜を追加するなど、日常で実践しやすい方法を提示した。これにより、患者が自身の食習慣を具体的に見直し、改善に向けた行動を選択できるよう支援した。